

# 教員プロフィール

平成 27 年 3 月 20 日

日本医療科学大学

所属学科・専攻	保健医療学部 臨床工学科
氏名	遠山 範康
職位	講師
資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床工学技士免許</li> <li>体外循環技術認定士(学会認定)</li> </ul>
主な略歴	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本工学院専門学校 医用工学科 卒業 (1992年) 専門士(臨床工学科)</li> <li>東京女子医科大学病院 日本心臓血圧研究所 人工心肺室 (1992年～2005年)</li> <li>大崎病院 東京ハートセンター 臨床工学部 部長 (2005年～2011年)</li> <li>せんぼ東京高輪病院 臨床工学室 (2011年～2013年)</li> <li>日本医療科学大学 臨床工学科 講師 (2013年～)</li> <li>読売理工医療福祉専門学校 非常勤講師 (2003年～)</li> <li>東京高輪病院 臨床工学室 非常勤臨床工学技士 (2013年～)</li> </ul>
担当講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>医用機器学概論</li> <li>医療治療機器学</li> <li>生体機能代行装置学</li> <li>体外循環装置学</li> <li>医療治療機器学実習</li> <li>生体計測装置学実習</li> <li>基礎医学実習</li> <li>体外循環装置学実習</li> <li>血液浄化装置学実習</li> </ul>
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>体外循環装置学</li> </ul>
主な研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい生体計測装置の開発</li> <li>人工心肺装置の自動制御・体外循環シミュレーターの開発</li> <li>透析業務支援システムの開発</li> <li>ME機器管理業務支援システムの開発</li> </ul>
業績 (主要なもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータ制御による体外循環の経験 (1994.08) 日本体外循環技術研究会</li> <li>当施設におけるPCPSの現状と将来 (1995.2) 日本体外循環技術研究会</li> <li>通常開心術への遠心ポンプの導入 (1996.3) 日本体外循環技術研究会</li> <li>急速大量輸液を可能としたPCPS回路の開発 (1996.10) 日本人工臓器学会</li> <li>逆行性脳灌流に用いる人工心肺回路の工夫 (2001.06) 循環制御学会 会長賞候補</li> <li>IABPの基礎と管理 (2004.2) カテラボセミナー講演</li> <li>低コストを目指した今後の体外循環 (2004.3) 日本体外循環技術研究会シンポジスト</li> <li>「基礎から学んでトラブルに対応 ME機器マニュアル」共同執筆</li> <li>「麻酔科医に必要な人工心肺の知識」共同執筆</li> </ul>
所属学会 (主要たる所属学会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本人工臓器学会</li> <li>日本体外循環技術医学会</li> <li>日本臨床工学技士会</li> <li>東京都臨床工学技士会</li> </ul>
社会活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>2000年沖縄サミットで厚生省医療団として参加</li> <li>日本臨床工学技士教育施設協議会 教科書委員</li> </ul>
在学生に一言	医療従事者となる自覚を持ち、人とのコミュニケーションや道徳心も大切にしながら勉学に励み、将来、人の気持ちがわかる心豊かで立派な臨床工学技士になって欲しいです。
受験生に一言	臨床工学技士は「医療機器の専門家」として様々な分野で活躍できる職業です。そのため、医学系と工学系の知識が必要であり、多くの事を学ばなければならないため大変だと思います。しかし、苦勞の先には必ず栄光が待っています。将来、医療従事者として病院で働いてみたいと考えている学生はぜひ選択肢の一つとして臨床工学技士を考えてみてください。
メールアドレス	